

James E. Hughes, Jr.
FOUNDATION
Publishing

繁栄を示す業績指標

富と遺産のための新たな枠組み

著者

ケイル・ダウエル、ベニアミン・パスクート、マシュー・T・リー

著者注

2045年までに、推定84兆ドルが世代から世代へと引き継がれる見込みです。

多額の資産を持つ家族にとって、この局面は並外れた機会であると同時にリスクも孕んでいます。本記事では、「繁栄パフォーマンス指標（FPI）」*を通じて、家族の長期的な成功を評価するための新たなパラダイムを紹介します。

「資産にとって最大のリスクは、不適切な投資や誤った税務戦略ではありません。資産にとって最大のリスクは、家族内部の機能不全なのです。」

エグゼクティブ・サマリー

人類史上最大の資産移転が今まさに進行中だ——2045年までに、推定84兆ドルが世代から世代へと引き継がれることになる。多額の資産を持つ家族、そして彼らに助言を行う専門家にとって、この局面は並外れた機会であると同時にリスクも孕んでいる。

家族の成功や遺産を測るための標準的な指標は、依然として主に財務的なもの——資産保全、投資収益、税負担の軽減、そして支配権——に留まっています。しかし、研究によれば、こうしたKPI（主要業績評価指標）だけでは、家族内で繁栄が実現しているかどうかを測るには不十分であることが示されています。実際、多額の資産を持つ家族の多くは、効果的なコミュニケーションに苦慮しており、共通の目的意識を欠いているため、資産の移転や保全に失敗することが少なくありません。

皮肉なことに、資産にとって最大のリスクは、不適切な投資や誤った税務戦略ではありません。資産にとって最大のリスクは、家族内部の機能不全やコミュニケーションの欠如なのです。

**Key Flourishing Performance Indicators、Flourishing Performance Indicators、
およびFPITMは、Cale Dowell、Benjamin Pascut、Matthew T. Leeの商標です。*

本記事では、長期的な家族の成功を評価するための新しいパラダイム、「Flourishing Performance Indicators (FPIs)」を紹介し
ます。「フローリッシング（繁栄）」という広範な学際的分野を精査し、人類史上最も野心的なグローバルな縦断的社会科学
学研究である「グローバル・フローリッシング・スタディ (GFS)」の知見と対話を重ねた結果、私たちは6つの主要な
FPI——心理的、身体的、目的、原則、人、繁栄——を抽出しました。これらの重要な指標、そしてより広義のFPIフレームワ
ークは、家族に対し、単なる経済的な繁栄だけでなく、包括的な繁栄を追跡し、育むことを促します。

6つのFPI：

- 心理的 – 精神的・感情的な幸福
- 身体的 – 健康とウェルネス
- 目的 – 人生の意味と方向性
- 原則 – 人格と価値観
- 人 – 人間関係と帰属感
- 繁栄 – 経済的・物質的な安定

本記事の対象読者は以下の通りです：

「レガシー」について

「レガシー」のより有意義な定義を求める

レガシーを重視する事業主、ファミリーオフィスの幹部、ウェルスマネージャ
ー、相続専門弁護士など

アイデンティティ、目的、そして自らの声に葛藤する次世代の相続人

結局のところ、本稿は読者に「成功」の再定義を促すものです。「私たちは、家族として、あるいはレガシーを重視する企業とし
て、真に繁栄しているだろうか？」と問いかけ、次のステップへ進む準備ができた人々に向けたロードマップを提示します。

第1部

私たちは本当に重要なことを測っているのか？

私たちは、人類史上最大の資産移転の時代を生きています。数兆ドルもの資産が、静かに、そして必然的に、多くの場合、道しるべもなく、世代から世代へと移りつつあります。ある推計によると、2045年までに84兆ドル以上がベビーブーマー世代からその相続人や慈善事業へと引き継がれることになります（Cerulli Associates 2022）。アドバイザー、家族、そして機関にとって、この瞬間は途方もない機会であると同時に、隠れたリスクも孕んでいます。

この富の多くは事業主の手に集中しています——家族経営企業は法人税申告額の87%、民間部門のGDPの54%を占めています——そして、研究によれば、こうした家族が管理する富の最大90%が、3世代目までに失われるとされています（Williams and Preisser 2003）。

我々は、この回避可能な損失の決定的な理由は、世代を超えた資産と遺産を適切に管理するために「繁栄」が重要であることを、家族がほとんど考慮してこなかった点にあると主張する。注目すべきは、今後10年から15年の間に、この富の過半数（おそらく70%以上）が、家族企業の創業者や経営者よりも長生きする傾向があり、彼らよりもFPI（繁栄パフォーマンス指標）に関心を寄せる可能性が高い未亡人（Garmhausen 2025）によって管理されることになるという点である。我々は、ビジネスや家族間の対話の範囲を直ちに広げることができる、新たな枠組みと実用的な指標セットを提案する。

当社のフレームワークと指標は、上場企業においても容易に適用可能です（VanderWeele and Johnson 2025）。

従来、成功は「財務資本の成長と保全」という一つの主要な指標によって測定されてきました。資産は増加したか？税金は最小限に抑えられたか？信託は適切に執行されたか？これらはすべて重要な問いですが、不完全でもあります。私たちは、測定可能なものを追跡することに慣れてしまいましたが、必ずしも最も重要なものを追跡しているわけではありません。業績指標——主要業績

（KPI）——を追い求めるあまり、私たちは財務ダッシュボードを、人間関係や感情、さらには精神的な健全性よりも優先させてきました。そして、それはうまくいきません。

憂慮すべき統計

富裕層の90%が、3代目までに資産を失っている——

その原因は投資の失敗ではなく、コミュニケーションの断絶、相続人の準備不足、そして共通の目的の欠如にある。

繰り返し強調する価値がある：富裕層の90%は、3代目までに資産を失っている（Williams and Preisser 2003）。しかし、その原因は投資の失敗ではない。Roy WilliamsとVic Preisser（2003）の研究によると、この崩壊の主な理由は、コミュニケーションの断絶、相続人たちの準備不足、そして共通の目的の欠如である。言い換えれば、問題はお金そのものではない。重要なのは「意義」なのです。

ウェルス・マネジメントの世界では、遺産という言葉や、あたかも貸借対照表と同義であるかのように扱うことがよくあります。しかし、アイデンティティや価値観、そして発言権を伴わない遺産は、脆い贈り物に過ぎません。私たちがしばしば追い求める「成功」——資産の拡大、資本の保全、ポートフォリオの分散——は、高潔な共通の目的、すなわち「人間の繁栄」に根ざしていなければ、かえって深い亀裂を生む可能性があります。「ウェルス（wealth）」という言葉は、アングロサクソン語の「we ol」に由来しており、これはもともと単なる金銭的な富ではなく、「幸福」を意味していたことに留意すべきである（Hughes, Jr. 2024）。この本来の、より深い意味と結びつけることで、金融資本が、しばしば軽視されがちなより重要な資本（例えば、精神的、社会的、知的、人間的資本。Hughes, Jr. 2025を参照。付録も参照）とどのように関連しているかが見えてくる。

経済的な成功は、目的そのものではなく、目的を達成するための手段に過ぎない。「繁栄（Flourishing）」は、単なる獲得以上の能力を持つ人間にとってふさわしい「北極星」となる（Keyes 2002; Lee 2019; Lee et al. 2021; Lee et al. 2025; Lomas, Pawelski, and VanderWeele et al. 2025; Ritchie-Dunham et al. 2024; Ritchie-Dunham, Granville-Chapman, and Lee 2025; Seligman 2011; VanderWeele 2017）。真の「繁栄」を追求することを通じて、私たちは創造し、神聖な目的に奉仕し、愛することができる（Ritchie-Dunham, Granville-Chapman, and Lee 2025; VanderWeele and Lee 2025）。

しかし、単一の業績指標にばかり注意が向いていると、焦点を失い、究極の関心事への関心が薄れてしまう（Lee et al. 2021）。富裕層の10世帯のうち9世帯が、これほど短期間で資産を失ってしまうのも不思議ではない。家族と同様に社会においても、人類史上最も野心的な、繁栄に関する世界規模の縦断的社会科学研究である「グローバル・フローリッシング・スタディ（GFS）」は、GDPと繁栄には負の相関関係があることを明らかにした。興味深いことに、中所得国は、特に「意味」「目的」、そして「充実した親密な社会的関係」といった本質的な繁栄指標において、高所得国を上回っている（Lee et al. 2025; VanderWeele et al. 2025）。これらは人生を生きる価値あるものにする要素であるにもかかわらず、遺産に関する議論ではめったに取り上げられない。

そこで本稿では、世代間の成功を評価するための新たな視点として、「繁栄パフォーマンス指標（FPIs）」を提案する。

GFSおよびハーバード大学ヒューマン・フローリッシング・プログラムの

「繁栄の5つの領域」——それ自体が目的である（VanderWeele 2017）——に着想を得て、FPIは、私たちが真に繁栄しているかどうかを測定するための、より豊かで包括的な方法を家族に提供します。KPIと同様に、FPIも内省、追跡、戦略の策定を促します。しかしKPIとは異なり、FPIはより深い内省を促します。私たちは理想とする家族になりつつあるのか？

第II部

財務指標がもたらす誤った安心感

金融資本は、追跡が最も容易であり、家族の内外を問わず最も目立つものです。

それは、財務諸表や資産評価、そして家の大きさ、着る服、乗る車といった日々のライフスタイルの選択に表れます。この可視性は、誤った安心感を生み出し、目に見えるものを過大評価し、目に見えないものへの投資を怠るという危険な傾向を招く可能性があります。

しかし、富は中立的なものではない。それは人間関係の力学を変え、権利やアイデンティティに関する疑問を投げかけ、以前から存在していた感情的・精神的な力学を増幅させる。特に相続された場合、富は不安や行動不能、さらには静かな疎外感の源となり得る——とりわけ

それに伴う影響力や責任、期待を自ら求めたことのない次世代の家族メンバーにとってはなおさらです。

今や、多くの人が直感的に感じていたことを、数々の研究が裏付けています。ある一定の水準を超えると、お金が増えたからといって幸福度も上がるわけではないのです。実際、多くの場合、お金の増加は幸福度の低下と相関しています。確かに、目的意識、つながり、そして関与は、富だけでは買えない極めて重要な要素なのです。

しかし、より良い枠組みがないため、多くの家族は依然として、繁栄の唯一の指標として経済的な安定を追求し続けています。しかし、もしその考え方を逆転させたらどうでしょうか？もし繁栄を確かな証拠に基づいて定義し、富をそれを育むためのツールにすることができたらどうでしょうか？

なぜ財務KPIでは不十分なのか

私たちには危険な盲点が生まれています。家族にとって最も重要なもの——信頼、目的、結束、知恵、愛——を定量化することに苦慮しているのです。これらは世代を超えた継続を支える柱であり、測定が難しいため、四半期ごとの会議で議論されることはほとんどありません。

成功を収めている個人や家族にとって、KPIはごく当たり前のものです。KPIはビジネスの鼓動そのものであり、客観的で追跡可能、そして成果に直結しています。ROI、CAGR、MOIC、流動性比率など、財務指標は数多く存在し、これらすべてが明確かつ迅速な意思決定を可能にします。それらは、複雑な環境においてリーダーにコントロール感を与えてくれます。

したがって、一族やそのアドバイザーが、レガシーについて考える際に、投資収益率、貸借対照表、事業評価額、あるいは慈善活動に投じられた資金といった同様の指標に頼りがちであることは理解できる。問題はKPIの使用そのものではなく、それらを「繁栄」の全体像と誤解することにある。

「お金」は手段であり、目的ではない

古典ギリシャ語において、「テロス (telos)」とは、物事の究極の目的や目標、すなわちその真の目的を指します。船にとってのテロスは航海することであり、種にとってのテロスは成長することです。しかし、アメリカ文化では、私たちは経済的な成功を人生のテロスとしてしまっています。

重要な洞察

「富 (wealth)」という言葉は、もともと「幸福」を意味しており、単なる金融資産を指すものではありませんでした。このより深い意味に立ち返ることで、金融資本が精神的、社会的、知的、そして人的資本とどのように関連しているかが明らかになります。

家族が富のより深い目的を明確に表現できない場合、慣れ親しんでいて安心できるという理由で、つい経済的な尺度に頼ってしまいがちです。しかし、このアプローチは、社会心理学者バリー・シュワルツ（2005）が「選択のパラドックス」と呼ぶ状況につながるがよくあります。選択肢が無限にあり、指針となるものが少ないため、家族——特に若い相続人——は、しばしば圧倒され、不安を感じ、孤立感を抱くことになります。

明確なアイデンティティや共有された物語がなければ、お金は単なる資源ではなく、疑問符となってしまいます。「このお金がなければ、私は誰なのか?」「自分一人でも十分なのか?」「今、私に何が求められているのか?」これらは金銭的な問いではありません。人間としての問いなのです。

ケーススタディ：空虚なポートフォリオ

「マイケル」と名付けようある2代目起業家の事例を考えてみよう。マイケルは家業を9桁の金額で売却した後、家族の資産を増やし、保全することに専念した。彼は一流のアドバイザーを雇い、保有資産を分散させ、慈善財団を設立した。表面的には、この家族は成功物語だった。

しかし現実には、家族は静かに亀裂を生じていた。成人した子供たちはめったに実家に戻らず、富に対する考え方もそれぞれ異なっていた。娘は、家族の話し合いの中で自分の存在が認められていないと感じ、対立する価値観を持つ独自の財団を立ち上げた。息子は家族の集まりから完全に距離を置いていた。経済的な強さにもかかわらず、家族は、感情的にも、精神的にも、そして人間関係の面でも、次第に疎遠になっていった。

「『繁栄』とはあなたにとって何を意味するのか」と尋ねられると、マイケルは一瞬言葉を詰まらせた。「よく分からない」と彼は認めた。「経済的な成功がどういうものかは分かっているし、経済的には問題ないことも分かっている。だが、家族として……私たちが大丈夫なのかどうかは分からない。」

これこそが、FPIが解決すべきまさにそのギャップである。家族が自分たちの基準で「繁栄」を定義し、その進捗を追

跡しなければ、他人の定義に従って生きるか、あるいは何の指針も持たずに生きるリスクを負うことになる。

「自力で築いた遺産」という神話

財務的なKPIが議論の中心を占めるもう一つの理由は、それらが「自力で築いた遺産」という神話という強力な文化的物語を助長しているからだ。私たちは生涯を通じて、勤勉さ、創意工夫、そして忍耐力が富をもたらし、富は当然のように幸福につながるという信念を植え付ける文化的メッセージを受け続けている。しかし、データはこの説を裏付けていない。

実際、研究によると、自力で富を築いた人々は、相続によって富を得た人々よりも、子供の成功や人柄についてより強い不安を抱えていることが多いことが示唆されています（Holodny 2016）。彼らは、自分の成功の原動力となった「不屈の精神」や「感謝の心」が子供には欠けているのではないかと心配するのです。この不安は理解できるものですが、多くの場合、エンパワメント（主体性の育成）ではなく、金銭的なインセンティブや仕組みを用いて行動を強制する「統制」へとつながってしまっています。

これは、複雑な信託、家族パートナーシップ、あるいは厳格な支出ルールといった形で現れることが多い。これらは有用な手段となり得るが、家族の力学に配慮せずに使用されると、しばしば逆効果となる。相続人は、財産の管理者ではなく、従業員のように感じ始める。コミュニケーションは断絶する。恨みが募っていく。

結果だけに注目するのではなく、家族には「方向性の整合性」を評価するための新たなツールが必要です。「コミュニケーションはうまく取れているか?」「共通の価値観を持っているか?」「家族企業だけでなく、家族一人ひとりの成長にも投資しているか?」——これらは、KPIが本来答えるようには設計されていない問いです。

繁栄には新たな視点が必要

世代を超えて真の成功を測るためには、視野を広げなければなりません。繁栄とは多面的なものです——そこには、心身の健康、有意義な人間関係、美德と人格、目的と貢献、そして未来への希望や楽観的な見通しが含まれます。これらの要素は相互に関連しています。ある領域が十分に発達していないか、あるいは過度に負担がかかっていると、システム全体が影響を受けます。

「繁栄」とは、あらゆるレベル（個人、集団、生態系）にわたる完全なウェルビーイングと定義できるかもしれない。「繁栄」は、ある特定の時点で個人、集団、あるいはシステムが完全に達成できるものではなく、多くのウェルビーイングの領域を統合しようとする思慮深い試みを伴う、目指すべき目標である（VanderWeele 2025; Lee et al. 2025; Lomas et al., 2025; Ritchie-Dunham et al., 2024）。言い換えれば、どの時点においても、人生のある側面ではより豊かに生きられ、別の側面ではそれほど豊かに生きられないということになる。繁栄の可能性のある領域は広大であるため、主要な領域を特定することが有用である。

さらに、ある時点での繁栄の成果は、将来の成果を形作る要因となる。例えば、優れた人格の形成は、ほとんどの人間にとって望ましい成果であり、一定レベルの優れた人格を獲得することは、

。

財務指標は往々にして遅行指標であり、すでに起こったことを示すに過ぎません。対照的に、「繁栄パフォーマンス指標」は先行指標として機能し、その家族がどこへ向かっているのか、またその家族文化が将来にわたって富を維持するのに十分な強さを備えているかどうかを示唆することができます。世界トップクラスのアドバイザーたちは、すでにこのことを直感的に理解しています。彼らは、人間関係の崩壊が、不適切な投資判断よりも早く富を破壊してしまうことを知っているのです。しかし、繁栄を測定するための明確な枠組みがなければ、どのように、いつ介入すべきかを見極めることは困難です。

そこでFPIの出番となります。FPIは、私たちがすでに財務の健全性について語っているのと同じように、家族の繁栄について語るための用語と枠組みを提供します。

これらは単なる「ソフトな指標」ではなく、不可欠な指標なのです。

ウェルネス、ウェルビーイング、繁栄、および関連トピックに関する研究論文は数千件に上ります。

これほど扱いにくい研究成果の山を精査し、私たちが年次健康診断を受ける際に医師が行うようなこと——つまり、私たちのライフスタイルが健康に資するかどうかを予測するためのいくつかの重要な質問を投げかけること——を行うのは不可能に思えます。定期的に運動しているか、よく眠れているか、バランスの取れた食事をとっているか、ストレスをうまく管理できているか、人間関係に満足しているか、そして喫煙や薬物乱用をしていないか、といった質問です。もちろん、医師が尋ねる可能性のある質問は他にも数十あります。しかし、こうした質問は他の多くの質問と密接に関連しており、ある時点で、これ以上質問を重ねても冗長になってしまいます。

「繁栄 (Flourishing)」は、単なる「健康」よりもはるかに複雑です。実際、そこには身体的健康だけでなく、充実した人生に寄与するあらゆる領域が含まれています。GFS (グローバル・フローリッシング・スタディ) では、5つの主要なフローリッシング領域 (幸福や目的意識など) に加え、多くの人々にとって大きな関心事であるその他のフローリッシングの成果 (例: 国に対する信頼度、中央政府のパフォーマンス評価) を取り上げており、これらの主観的指標はすべて、GDP、環境パフォーマンス指数、人間の自由度指数などの様々な客観的指標と対比させることができます (Lee et al. 2025; Lomas et al. 2025)。すべての人々の繁栄を促進するという高潔で自己超越的な目標のために、こうした指標を統合することで、個人や集団は、システムの管理者となるべく協力し合う力をより一層得ることになる (Lee et al., 2021, p. 561)。

異なる集団が大切にする人生の側面を見極めるのに役立つ指標を理解し、統合し、調和させなければ、私たちがどのようにして集団として「繁栄」を追求できるか想像するのは難しい。しかし、「繁栄」を評価するためのツールは数多く存在する。それらは多くの共通点を持つ一方で、重要な相違点 (Hone et al. 2014) や欠落している要素も存在する。「繁栄」が他にどのような要素を含むにせよ、我々はGFSが採用したアプローチ (VanderWeele 2017; VanderWeele et al. 2025も参照) に同意する。すなわち、いかなる「繁栄」の定義においても、必ず含まれなければならない主要な領域が存在するという点である。我々はこれらを、心理的 (Psychological)、身体的 (Physical)、目的 (Purpose)、原則 (Principles)、人 (People)、繁栄 (Prosperity) という6つの主要なFPIに適応させた。

これら6つの「P」は、人生において真に重要な事柄に投資するための議論を定量化し、導くための直接的な道筋となり、それによって「繁栄 (Prosperity)」の定義を拡大し (Mayer 2018)、「富 (wealth)」という用語の本来の意味を取り戻す (Hughes, Jr. 2024)。これらの指標は、家族とそのアドバイザーに対し、何がその遺産を育んでいるか (あるいは静かに蝕んでいるか) を評価するための、構造化されながらも柔軟な方法を提供する。

。

指標を検討する前に、真の繁栄を達成するためには、それらを用いる際の精神が極めて重要であることを強調しておかなければなりません。ビジネスにおいてKPIが明確なベンチマークを提供するのと同様に、一連の主要なFPIは家族にとっての道標となり、定期的な内省、率直な対話、そして状況に応じた成長を促すことができます。そのためには、安全性、信頼、思いやり、善意、そして継続的な関係と対話へのコミットメントを特徴とする、形成的な文脈が不可欠です。取引的あるいは搾取的な文脈の中で、主要なFPIを総括的な方法で用いることは、有意義な成長のための真摯な自己評価や誠実な対話から逸脱する誘因を生み出します。

重大な警告

資金の配分を「繁栄」のレベルに結びつけると、モラルハザードを生み出します。リスクが高ければ、人々は嘘をつくよう誘導される可能性があります。法律の精神を、文字通りの遵守という形式的な行為のために放棄してはならない。

言い換えれば、いかなる枠組みや指標のセットも、愛情に満ちた人間関係の役割を果たすことはできませんが、主要なFPIは、家族がより意図的かつ巧みに関係性の文脈を築く助けとなります。

GFSを活気づけ、私たちにFPIの開発を動機づけた精神は、ある単純な問いに反映されています。「よく生きるとはどういうことか、そしてどうすればその目標を共に追求できるのか?」。よく生きるには倫理的基盤が必要であり、研究によれば、人格や社会的関係を重視することが極めて重要であることが分かっています（Weziak-Bialowolska et al. 2023）。長年にわたる哲学的・宗教的伝統は、まさにこの研究結果と一致する予測を立てています。「『よく生きる』ことは、経済的安定や身体的健康といった物質的な善ではなく、非物質的な善、とりわけ社会的つながりや性格の強みを重視することによって達成されるようだ」（Weziak-Bialowolska et al. 2023, p. 1）。もちろん、後者も依然として重要であり、だからこそそれらは「善」と呼ばれるのです。しかし、善には「下位の善」と「上位の善」、すなわち「次善の目的」と「究極の目的」が存在する（Guillen 2021; Lee et al. 2021; Waldinger and Schultz 2023）。

FPIの主要指標のセットには、FPIの着想源となったより広範な「繁栄」の測定基準と同様に、良好な人格や社会的関係が含まれる必要がある（VanderWeele 2017）。人文科学の深い知恵に根ざし、かつ最近の科学的知見と調和したGFSは、心理測定学的に検証された「完全なウェルビーイング」の多次元モデルと、科学的に厳密な縦断的分析手法を採用した。「幸福」というテーマで広く知られている多くの枠組みが、良い人生を一元的なイメージとして提示するのは異なり、このモデルは人間の経験の複雑さをより完全に反映するように設計されている（Johnson, VanderWeele, and Case 2025）。我々はこれをFPIの出発点として用いている。

従来のKPIが資産のパフォーマンスを示すものであるのに対し、FPIは私たちの生活——そして家族——がどうなっているかを問うものである。FPIは、議論の焦点を「資本の保全」から「人間の保全」へと転換させる。単なる富の豊かさから、豊かな人生へと。所有から、管理・保全へと。

FPIの概念は、GFS（ヴァンダーウィールら 2025）および「繁栄」に関するより広範な学術研究、とりわけハーバード大学の「ヒューマン・フラワリング・プログラム」による学際的研究に直接由来しています。同プログラムは、「よく生きるとはどういうことか」という、人生における最も古くからの問いの一つを研究することを目的としていました。多くの「幸福」に関する枠組みとは異なり、この多次元的なアプローチは厳密かつ包括的であり、人間の経験の持つあらゆる複雑さを反映するように設計されています。

家族の資産という文脈において、FPIの主要な各領域は、目に見える「家族の遺産という木」を支える根のシステムを表すことができます。各領域に強固な根を張ることで、バランス、回復力、そして持続可能な成長がもたらされます。ある領域を疎かにしても、木は依然として立っているかもしれませんが、やがてその不均衡が不安定さを招き、さらには倒壊に至る可能性もあります。

各領域は独自の役割を果たしますが、どれ一つとして単独では不十分です。これらが一体となって、個人としてだけでなく、家族やコミュニティとして「繁栄」とは何かというバランスの取れた全体像を描き出します。この研究は、「繁栄」は測定可能であるという強力な洞察を提供しています。そして、さらに重要なことに、それは育成可能なものです。

これは、財務的なKPIに取って代わるものではありません。それらを補完するものです。KPIと主要なFPI（家族パフォーマンス指標）の統合について家族で定期的に対話を行うことは、経済的富だけでなく、人間関係、社会、さらには（より高い目的という意味での）精神的な富を保全するための省察と行動を促します。全体的な視点を持つことで、家族は現在の盲点を乗り越え、世代を超えた富の適切な管理の真の意義や、遺産がもたらす影響を包括的に捉えることができるようになります。

第3部

FPIから対話へ：実践的なツール

ここでは、各領域について簡単に検討し、それが家族が振り返ったり、さらには追跡したりできる重要な「繁栄パフォーマンス指標（FPI）」にどのように結びつくかを見ていきましょう。本調査のサンプル項目は、個人（成果）および家族（コンテキスト評価）を対象として作成しましたが、これらの項目は組織やシステムにも容易に適用可能です（例えば、コンテキスト評価では「ファミリービジネス」という語が括弧で囲まれており、入力項目において「家族」という語と置き換えることができます）。FPIは、定量的および定性的な考察の両方を促します。一部の家族は、内部用のスコアカードを作成することを選ぶかもしれません。第一段階として、アウトカムに関する調査項目にまず焦点を当てることをお勧めします。そのため、コンテキストに関する調査項目の前に、アウトカムに関する調査項目を記載しています。5つの短い成果に関する項目は、最初の対話の基礎となり、それがさらなる質問をする動機付けにつながります。一方、入力項目は、当初すべての家族に必ずしも存在しているとは限らない、ある程度の信頼関係と配慮を前提としています。これらの項目に対する否定的な回答は、慎重に対処しなければ、さらなる対立を招く可能性があります。また、調査項目を省略し、単に各領域そのものを活用して、家族リトリートやマンツーマンのコーチングにおける対話の指針とすることも可能です。こうした対話がどのような精神で行われるかが極めて重要です。最も重要なのは方法ではなく、考え方なのです。

FPI #1：心理的

内省：私たちの家族の各メンバーに深い喜びをもたらすものは何か——そして、私たちはそのための空間を作っているだろうか？

潜在的な指標：

- 有意義な体験を共に過ごすための計画を立て、それに時間を割き、その時間を追跡すること。
- 会話における感情的な関与に注意を払う：「私たちは互いに心を向けているか？」
- 心理的ウェルビーイングに関するパルス調査（匿名またはファシリテーターによる）：
 - 成果調査の項目例：「全体として、あなたの人生にどの程度満足していますか？」回答は0（「全く満足していない」）から10（「完全に満足している」）までの範囲
 - 文脈に関する調査項目の例：「この家族 [または家業] への関与は、私の人生に対する満足度にプラスの影響を与えています。」
回答範囲は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）まで

定義：内面の世界と明確な認識（気づき）を持って向き合い、社会的な世界と前向きにつながり（調和）、自信と自制心を持って課題に立ち向かう（行動）という、精神的・感情的な幸福の状態。

家族にとって重要な理由：この領域はしばしば軽視されがちですが、極めて基礎的なものです。

たとえ経済的に安定していても、人間関係に不安を抱えていたり、感情的に疲弊していたりすれば、その家族は「繁栄」しているとは言えません。富は快適さをもたらすことはあっても、必ずしも満足感をもたらすわけではありません。実際、研究によれば、基本的なニーズが満たされると、心理的ウェルビーイングは物質的な富よりも、人間関係、自律性、そして人生の意味に重きを置くようになることが示されています。特に相続は、この「繁栄」の領域を複雑にする可能性があります——とりわけ、相続人がプレッシャーや罪悪感、あるいは目的意識の欠如を感じている場合にはなおさらです。

FPI #2：身体的

振り返り：私たちは、病気が現れた時だけでなく、長期的なウェルビーイングを築くために先を見据えて、各家族の身体的な健康を積極的に模範を示し、投資しているでしょうか？家族が偏見なく健康について話し合い、困難を困難を乗り越えるための支援を受けられる仕組みはありますか？

考えられる指標：

- 家族の健康状態の確認やウェルネス・チェックイン
 - 運動、セラピー、予防医療の奨励と投資
 - 偏見なくメンタルヘルスについて率直に話し合うこと
- 身体的健康に関するパルス調査（匿名またはファシリテーター付き）：
 - *成果調査の項目例：*「全体的に、私の身体的健康状態は極めて良好です。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲
 - *文脈に関する調査項目の例：*「この家族 [または家業] への関与は、私の身体的健康に良い影響を与えている。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲

定義：身体のニーズに注意を払い（「気づき」）、生理的システムが健全なバランスを保ち（「調和」）、長期的に健康を支える習慣を実践している（「行動」）という、身体的な健康状態。

家族にとって重要な理由：富は、身体的ウェルビーイングを支えることもあれば、損なうこともあります。ストレスは病気的主要原因であり、ハイパフォーマンスを重視する文化は、一部の家族成員を過労やバーンアウトに追い込む可能性があります。また、富の配分や移転における不公平感をめぐる争いは、身体に悪影響を及ぼすことがあります。こうした未解決の問題は、特に富へのアクセスがあるにもかかわらず方向性を見失っている場合、次世代の道を阻む恐れがあります。一方で、身体的健康（およびその決定要因）に注意を払うことは、家族を強固にし、他の繁栄の領域における向上にも寄与します。

FPI #3：目的

考察：家族の一人ひとは、自分にとっての「目的」が何であるかを明確に理解しているでしょうか。また、家族システムはその追求を後押ししているのでしょうか、それとも妨げているのでしょうか。私たちは、個人として、そして家族として、自分たちの存在意義を把握しているでしょうか。

もし明日、すべての財産を失ってしまったとしても、それでも私たちを導き続ける目的とは何でしょうか？

考えられる指標：

- 家族一人ひとりが、自身の使命や目標を明確に語ることができる
 - 財務見直しと並行して、毎年「目的の見直し」を行う
 - 寛大さや投資は、単なる税務戦略や財務的リターンではなく、家族の中核となる価値観を反映している
- 目的に関するパルス調査（匿名またはファシリテーターによる）：
 - *調査項目の例：*「私の人生でやっていることは価値がある。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲
 - *文脈に関する調査項目の例：*「この家族〔または家業〕への関与は、私の人生に価値があるという実感に肯定的な貢献をしている。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲

定義：自分の人生とその行方を理解し（自覚）、役割、目標、そして責任を首尾一貫した有意義な方向へと整合させ（整合）、人生の変化に合わせて目標に向けた歩みを続けられる（行動）という、目的意識に満ちた幸福な状態。

家族にとって重要な理由：目的がなければ、経済的な豊かさは空虚なものに感じられます。特に次世代の相続人にとって、目的の欠如はしばしば業績不振や感情的な離脱につながります。明確な「なぜ」がなければ、富は創造的な力から切り離されてしまいます。

FPI #4：原則

考察：私たちは世代を超えて、どのような美徳を一貫して模範とし、称え、期待しているでしょうか？それらを世代を超えてどのように育んでいるでしょうか？

潜在的な指標：

- 単なるビジネスの成功だけでなく、道徳的なリーダーシップを認めること
- 家族リトリートでの会話の中で繰り返し語られる具体的なエピソードと結びついた、文書化された家族の価値観
- 個人の成長を重視するメンターシップ・プログラムへの参加機会の提供および参加

- 個人の人格に関するパルス調査（匿名またはファシリテーターによる）：
 - *成果調査の質問例*：「私は常に、謙虚さ、誠実さ、そして他者への深い思いやりを表現するような行動をとっています。」回答は0（「自分に当てはまらない」）から10（「完全に当てはまる」）までの範囲
 - *状況に関する調査項目の例*：「私の家族〔または家族経営の事業に関わる人々〕は、私が謙虚さ、誠実さ、そして他者への深い思いやりを表現できるよう助けてくれる。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲

定義：真実かつ価値あるものに向き合い（自覚）、自身の価値観に誠実に沿って生き（整合性）、周囲の人々の幸福のために行動する（行動）という、道徳的な幸福の状態（行動）という状態。

家族にとって重要な理由：家族は単なる能力以上のものの上に築かれています。人格こそが、世代を超えた富を支える安定の源です。それは、責任感、賢明な意思決定、そして人間関係における信頼を可能にするものです。それにもかかわらず、人格は育まれるというよりは、しばしば当然のものとして想定されがちです。

FPI #5：人々

振り返り：私たちは互いに近づいているのか、それとも遠ざかっているのか——そして、関係上の緊張が断絶に発展する前に、それを解消するためのプロセスは整っているか？ 私たちが避けているが、向き合うべき関係上のリスクはあるか？

潜在的な指標：

- 共有した有意義な体験、再会、あるいは儀式を記録する
- 「葛藤の健全性」スコア：私たちは緊張に対処しているか、それとも回避しているか？
- 書面による葛藤解決計画

- 人々との関係に関するパルス調査（匿名またはファシリテーター付き）：
 - *結果調査の項目例*：「私の人間関係は満足いくものであり、私にとって有意義です。」回答は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）までの範囲
 - *文脈に関する調査項目の例*：「私たちの家族〔または家族経営の事業〕の関わり方は、私の人間関係における満足感や有意義感に肯定的な影響を与えている。」回答範囲は0（「全く同意しない」）から10（「強く同意する」）まで

定義：信頼され、愛されていると感じる（自覚）、他者のニーズに寄り添う（調和）、そして共有された経験や課題を通じて他者と共に成長する（行動）という、帰属感とつながりの状態。

家族にとってなぜ重要なのか：管理されていない資産は、しばしば人間関係の絆を真っ先に損なう原因となります。金銭をめぐる争い、事業承継、あるいは偏りがあると思われる扱いが、家族間に深い亀裂を生じさせることがあります。円満に繁栄している家族は、率直なコミュニケーション、対立の解決、そして感情的な親密さを重視する傾向があります。強固な関係は、家族が対立や変化、不確実性を乗り越える助けとなります。

FPI #6：繁栄

振り返り：私たちはお金についてどのような物語を共有しているか——そして、どのような物語を書き換える必要があるか？私たちの財政状況について、明確で共通の理解があるか——そして、私たちの価値観やビジョンに沿って資源を活用しているか？

潜在的な指標：

- 年齢に応じた教育、コミュニケーション、そして家族の資産負債状況や将来の財産相続に関する明確な理解
- 家族の価値観と支出・投資との整合性の追跡
- 「経済的自由」スコア：家族一人ひとりが、経済的な不安や機能不全から解放されていると感じているか？

定義：自身の経済状況を理解し（認識）、将来の目標に向かって進む能力と機会を持ち（整合性）、遺産を築き他者の利益となるよう日常生活で資源を賢明に管理する（行動）という、経済的・物質的な安定の状態。

家族にとって重要な理由：これは、家族がすでに測定している唯一の領域ですが、しばしば過度に重視されがちです。この分野における真の繁栄は、単なる資産の蓄積ではなく、自信と明確さから生まれます。それは、各世代が自らの経済的現実を理解し、それを賢明に管理する準備ができていることを意味します。

しかし、ここにおいてもFPIは別の問いを投げかけます——単に「私たちは経済的に安定しているか？」ではなく、「私たちは自由か？」という問いです。

「完璧」ではなく「統合」

これこそが、「繁栄パフォーマンス指標（FPIs）」という概念の基盤です。これは、家族が新たな対話を始めるための新しい枠組みであり、「いくらあるか？」ではなく、「私たちはどうなっているか？」から始まる対話です。

どの家族も、ある分野では強く、別の分野では弱いものです。それは失敗ではなく、自覚です。FPIの目的は、競争的なスコアカードを作ったり、さらなるパフォーマンスへのプレッシャーをかけたりすることではなく、鏡と地図を提供することです。私たちが今どこにいて、どこへ向かっているのかを明確に把握し、どこに行きたいのかについて思慮深い議論を行うための手段なのです。

繁栄とは決して静的なものではありません。それはダイナミックで、相互依存的であり、極めて個人的なものです。しかし、適切な枠組みと共通の言語があれば、家族は単に「どれだけ持っているか」だけでなく、「どれだけ豊かになりつつあるか」を把握し始めることができます。

繁栄を伴わない経済的成功だけを追う家族は、企業を経営しているだけであって、遺産を育んでいるわけではありません。

第4部

家族の繁栄を表す視覚的モデル

視覚的なモデルは、言葉だけでは得られない深い理解をもたらすことがよくあります。ここでは、家族システムの中で繁栄がどのように機能するかを説明するために、木を比喻として用いた表現を提案します。

木と同じように、繁栄する家族には以下の要素が不可欠です：



根のない木が繁栄することはありません。根は目に見えないことがよくありますが、常に不可欠なものです。家族にとって、その根は、前述した繁栄の重要な領域とのつながりを表しています。もし根が病んでいれば——例えば、家族システムが秘密や恨み、あるいは抑制されていない経済的不安を容認している場合——その木が実らせる「果実」は苦く、長続きしません。木は成長するかもしれませんが、倒れる危険にさらされるでしょう。

根系が地中で目に見えないところから始まるのと同様に、繁栄もまた、定量化しがたい形で始まります。

幹は、嵐の中でも木をまっすぐに支えるものです。幹は養分を上へと送り届け、枝が外へと伸びるための強さを与えます。家族において、幹は各領域がもたらす安定性と、繁栄が育つための道筋を表しています。

幹のない木は、枯れた根や折れた枝が絡み合ったものに過ぎません——その木は本来の可能性を発揮できなかったか、あるいは切り倒されてしまったのです。強固な幹を欠く家族は、しばしば方向性を失いがちです。ある領域では繁栄していても、別の領域では病に侵されているかもしれません。幹は弱まり、成長を支えるのに苦労することになります。

成長を始めるための「ドメインごとの1つの行動」：

心理的側面：年に一度、意図的に家族で集まり、有意義で喜びに満ちた体験を分かち合う。

身体面：

1つの健康習慣（例：運動、カウンセリング、食事）を優先し、その効果について振り返る。

目的：

各メンバーが自分の「なぜ」を言葉にし、それが家族から大切にされていると感じられるようにする。

原則：

各メンバーは、自分にとって重要な3～5つの核心的な価値観を書き出します。

人間関係：両親や祖父母が、子供一人ひとりに「祝福の手紙」を書く。

繁栄：

年に1回、家族で集まり、家族の収支表を見直しましょう。

幹から、木は外へと枝を広げていきます。これらは、家族の中やその外的世界において、繁栄がさまざまな形で現れ始める様子です。それらは形や木陰、広がりを与え、強靱な幹の支えによって生き延びています。

健全な枝はしなやかで、信頼に根ざしています。弱い枝は孤立を示しています。一部の家族では、ある枝が「過度に成長」してしまうことがあります。つまり、ある一つの領域（あるいは一人の家族）に過度に焦点を当てすぎて、他の部分にはほとんど、あるいは全く注意が向けられなくなるのです。強い家族とは、契約によって結ばれているのではなく、深くつながっているものです。

最後に、果実です。これは世界から見えるものであり、私たちが時に木全体と誤解してしまうものです。家族において、果実は繁栄の目に見える表現、すなわちFPIを表しています。

極めて重要な点として、すべての果実が四半期ごとのタイムラインに沿って実るわけではありません。ゆっくりと育つものもあります。すべての果実が甘いわけでもありません。苦いものもあります。すべての果実を食べるべきというわけでもありません。捨てるべきものもあるのです。

聖書の物語にあるように、「その実によって彼らを知ることができる」。家族の繁栄において、「良い実」を分類し、その根本原因（語呂合わせの意図はありません）まで遡ることができれば、理想的な結果——何世代にもわたって素晴らしい実を結ぶ健全な木——を生み出す要因を測定する機会が得られます。

FPIは、不均衡や「悪い実」を明らかにするのに役立ちます。そして、それは朗報です。なぜなら、一度特定されれば、それに対処できるからです。私たちは根本原因を突き止め、家族の繁栄をもたらす重要な領域への投資を調整し、バランスを取り始めることができるのです。

第5部

インベントリから行動へ：

家族の繁栄を測定し始める方法

アイデアだけでは家族は変わりません——行動こそが変化をもたらすのです。「繁栄パフォーマンス指標（FPI）」を導入する目的は、機能不全を恥じさせることなく、それを可視化し、対処可能にすることです。明確さ、対話、そして軌道修正のための枠組みを提供するためです。企業がKPIを見直さなければ繁栄できないのと同様に、家族もまた、真に重要な要素——そしてそれらの分野で自分たちがどの程度成果を上げているか——を測定しなければ、繁栄を期待することはできません。

親、祖父母、アドバイザー、あるいは次世代のリーダーのいずれであっても、私たちの目的は、実践的な道筋を示すことです。これらのステップが、インスピレーションからから行動へと移る助けとなることを願って、実践的な道筋を提示することです。

1. 現状把握：率直な自己評価

まずは、6つの領域にわたってご家族の現状を評価することから始めましょう。各領域を1～10のスケールで評価するだけで十分です：

- **心理的** – 精神的な明晰さ、感情的な回復力、そして希望に満ちた展望
- **身体面** – 活力、健康、そして回復力と身体の動きの良さ
- **目的** – 人生における意味、方向性、そしてモチベーション
- **原則** – 行動の指針となる人格、規律、美德
- **人間関係** – 人間関係の質と帰属意識
- **繁栄** – 経済的な安定、物質的な充足、そして責任ある管理

家族一人ひとりに同じことをやってみましょう。共通点や、認識の意外な違いが見つかるかもしれません。

重要なのは、完璧な点数をつけることなく、現状を明確に把握し始めることです。

2. 対話を促進する：

「目に見えないもの」について安心して話せる環境を作る

基本的な現状把握が終わったら、家族での夕食やリトリート、ファシリテーターを交えたミーティングなど、各領域が何を意味し、どこに成長の余地があるかについて率直に話し合える場を設けましょう。

会話を進めるための質問例をいくつか挙げます：

- 「**繁栄**」とは、私たち一人ひとりにとってどのような意味を持つのでしょうか？
- どの領域が最も疎かになっていると感じますか？それは他の何かに影響を及ぼしていますか？
- 富、成功、あるいは遺産に対する私たちの考え方を左右している、口に出されていない物語や前提、あるいは暗黙の「秘密」はありますか？

こうした初期の議論を円滑に進めるために、信頼できる外部のファシリテーターや家族アドバイザーの活用を検討してください。目標は即座の解決ではなく、明確さと絆を深めることです。

3. ご家族独自のFPIとリズムを定義する

6つの領域を検討した後、それぞれについて1〜2つの独自の「**繁栄パフォーマンス指標（FPI）**」を明確に定義してください。これらは、ご家族の価値観、優先順位、文化を反映したものであるべきです。

これらは動的な指標です。共通の意図を設定することで、家族はインスピレーションから行動へと移行します。また、FPIが単なる忘れ去られた取り組みにならないよう、家族の生活リズムに組み込みましょう。家族がこれを組み込む方法の例としては、次のようなものがあります：

- 年次リトリートやニュースレター
- レガシー計画のセッション
- 世代を超えた夕食会
- 四半期ごとの家族チェックイン
- エンパワーメントの宣言／祝福の手紙

こうした対話を重ねることで、文化的な強みが育まれていきます。家族は、お金以上のことについて語り合うことを学びます。そして、人生の意味について語り合うことを学ぶのです。

4. 活用ガイド

ファイナンシャル・プロフェッショナルや遺産計画の専門家、慈善活動アドバイザーなどと協力している場合は、彼らをFPIの対話に招き入れましょう。優れたアドバイザーは、すでに次のような質問を投げかけています。

**「あなたが正すべき『不正』とは何ですか？」 「どのようにして
お金と目的を結びつけていますか？」 「金銭以外のどのような資本に投
資していますか？」**

あなたのFPIの枠組みを理解しているアドバイザーチームと協力することで、技術的な側面を超えた領域へと進む機会が得られます。適切なガイドは、世代を超えて財産を適切に管理し、繁栄を実現するために、金融資本を活用する手助けをしてくれるでしょう。

しかし、あなたのFPIを理解せず、共有せず、支持しないアドバイザーは、意図せずしてご家族の繁栄を阻む要因となりかねません。あなたにとって何が最も重要なのかを知らないということは、おそらく尋ねていないということでしょう。それは良い兆候とは言えません。

とはいえ、繁栄を実現するための取り組みは、最終的には家族自身の責任です。いかなる仕組みや演習、あるいは報告書も、家族間で交わされる対話、意図的な内省、そして時間をかけて行われる変容のプロセスの代わりにはなりません。

時間をかけての変容

**繁栄は一朝一夕には実現しません。
木は1四半期で育たないのと同じように、家族もそうではありません。「千
里の道も一歩から」。
今日から始めましょう——たとえ、機能不全や方向性の喪失、あるいは深い痛みを抱えている状態から始めると
しても。
最初の一步が最も重要です。**

問題に名前を付け、より良い未来を目指すという行為そのものが、すでに繁栄への一歩なのです。

時が経つにつれ、FPIを取り入れた家族からは、次のような声がよく聞かれます：

- 成功の定義がより明確になる
- 世代を超えた絆の深化
- 富の活用における目的の再確認
- より持続可能で喜びに満ちた遺産の継承

なぜなら、家族が真に重要なものに投資するとき、彼らは永続的な遺産を築くだけでなく、豊かな人生を生み出すからです。

第6部

最後の考察：豊かな遺産とは、単なる資産ポートフォリオではなく、人によって測られるもの

歴史上最大の資産移転が進む今、私たちには「物語」を変えるという、稀有かつ強力な機会が訪れています。

本記事で詳述したように、私たちが次世代に引き継ぐ遺産は、単なる金融資産以上のものです。私たちは今、「繁栄」とは何かというビジョンを伝える絶好の機会に立っています。もし、私たちの子供や孫たちが、自分の人生を「稼いだ額」や「相続した財産」だけでなく、「どれだけ愛し、癒やし、奉仕し、成長したか」という尺度で測りながら成長したらどうなるのでしょうか？

FPIの枠組みは、ファイナンシャル・プランニングに取って代わるものではありませんが、それに欠かせないパートナーとなるべきものです。それは、数字よりも物語の方が重要であることを私たちに思い出させてくれます。富の真の尺度とは、繁栄する家族です。そして、それこそが投資する価値のある取り組みなのです。

読者の皆様への行動喚起：

もしあなたが家族のリーダーであるなら：

今すぐ始めましょう。今後2週間のうちに60分を確保し、「繁栄」の6つの領域について振り返ってください。「私たちの強みはどこにあり、弱点はどこにあるのか？」と自問してみてください。

アドバイザーの方へ：

クライアントであるご家族にFPIの概念を紹介してください。

各家族が、財務諸表と併せて確認できるFPIを1つまたは2つ作成できるよう支援してください。

次世代を担う家族の一員である場合：

誘われるのを待たないでください。ご家族に「私たちにとっての『繁栄』とはどのようなものか、話し合ってみませんか？」と尋ねてみてください。ご自身の目的や情熱、そしてそれらがご家族が紡ぎ出している物語とどのように結びついているかを振り返ってみてください。

レガシーは書類によって築かれるものではありません。決断によって築かれるものです。そして最も重要な決断とは、「成功とはどのようなものか」、そして「それをどのように測るのか」を再定義することです。それを書き留めることで、その重要性が確固たるものになります。

「繁栄」とは抽象的な理想ではありません。それは一つの道です。意図を持って、共に歩みを進める道なのです。

今こそ、新たなレガシーの種を蒔く時です。それは、意味に根ざし、目的によって育まれ、これからの世代に実を結ぶレガシーです。

第Ⅶ部

FPIフレームワークの概要

FPIフレームワークの要点 —

「認識」「整合」「行動」を通じて検証される6つの領域

心理的	内面の世界と明確に向き 合える、精神的・感情的 な安らぎの状態	社会的な世界と前向 きにつながり続ける	そして、自信と自制心 を持って課題に立ち向 かう
身体的	身体のニーズを満たし 、身体的な健康状態が 保たれている状態	生理機能が健全なバラ ンスを保っている状態	そして、長期的に健康を支 える習慣を実践している状 態
目的	自分の人生とその行方を 理解している、目的意識 に満ちた幸福な状態	自分の役割、目標、そして 責任を、一貫性があり意味 のある方向へと整合させる	そして、人生の変化 に合わせて、目標に 向けた一歩を踏み出 し続けます
原則	何が真実で価値あるも のかを見極めようとする 、道徳的な幸福の状態 真に価値あるもの へと向かっている状 態	自分の価値観に誠実に生き	そして、周囲の人々の幸 福のために行動する
人々	信頼され、愛されていると感 じられる、帰属感とつながり の状態 愛されていると感じられ る	他者のニーズに 他者のニーズに	そして、共有された経験や や困難を乗り越えなが ら
繁栄	経済的・物質的に安定した状 態であり、自身の経済状況を 把握している	将来の夢に向かって進むた めの能力と機会を持ち 将来の目標に向かって進む能力 と機会を持ち	また、日常生活において資 源を賢明に管理し、他者の 利益となる遺産を築くこと

この枠組みは、6つの主要な領域にわたる家族の繁栄を包括的に捉えたものであり、各領域は「認識（理解）」、「整合（統合）」、「行動（実行）」という視点から検討されています。

著者について



ケイル・ダウエル

超富裕層ファミリー向けのマルチ・ファミリー・オフィス・アドバイザーおよび投資会社、Arkos Global Advisorsの社長。ケイルは、家族が目的を持って資産を管理し、経済的資本、人間関係の資本、そして精神的な資本を統合して、永続的な遺産を築く姿を見ることに情熱を注いでいます。



ベニアミン・パスクット (Ph.D.)

レガシーを重視する企業であるアンバサダー・エンタープライズ (Ambassador Enterprises) のプライベート・エクイティ投資担当シニア・マネージャー。リーダーシップ開発、学際的研究、組織戦略における経験を融合させ、目的、価値観、パフォーマンスを統合し、長期的な繁栄を実現するためのツールやフレームワークを設計している。



マシュー・T・リー博士

ベイラー大学社会科学・人文科学教授、ハーバード大学ヒューマン・フラワリッシング・プログラムの「フラワリッシング・ネットワーク」ディレクター、およびフォード大学ガベリ・ビジネススクール人文経営センターの上級研究員。

彼の研究は、人文学の深い知恵と厳密な社会科学を統合し、人々が互いをより深く愛し合い、その愛を現実のものとする手助けをしている。

著者紹介

この記事のきっかけとなった最初の対話は、5月2日にハーバード大学で開催された「Flourishing at Work Summit」の中で行われました。その対話の結果、3人の著者は、資産承継に伴う混乱を経験している家族に実践的な指針を提供するために、伝統ある企業、超富裕層向け資産運用、そして「フローリッシング（繁栄）」に関する研究というそれぞれの知識を統合することの価値を見出し始めました。私たちを励まし、支えてくださったバイロン・R・ジョンソン氏、アン・ホワイト氏、ジェームズ・E・「ジェイ」・ヒューズ・ジュニア氏に感謝するとともに、「グローバル・フローリッシング・スタディ」を主導する研究チーム、およびそのパートナーや資金提供者の方々に、世界中の多様な人々のグループにおける「フローリッシング」の体験について新たな知見を生み出してくださったことに感謝いたします。特に、タイラー・ヴァンダーウィール氏には、「グローバル・フローリッシング・スタディ」の着想の源となった「フローリッシング」の概念化と評価、ならびに「フローリッシング」研究者の広範なネットワークへの支援に対し、深く感謝いたします。本章で述べられている見解は著者個人のものであり、いかなる組織の意見や支持を反映するものではありません。

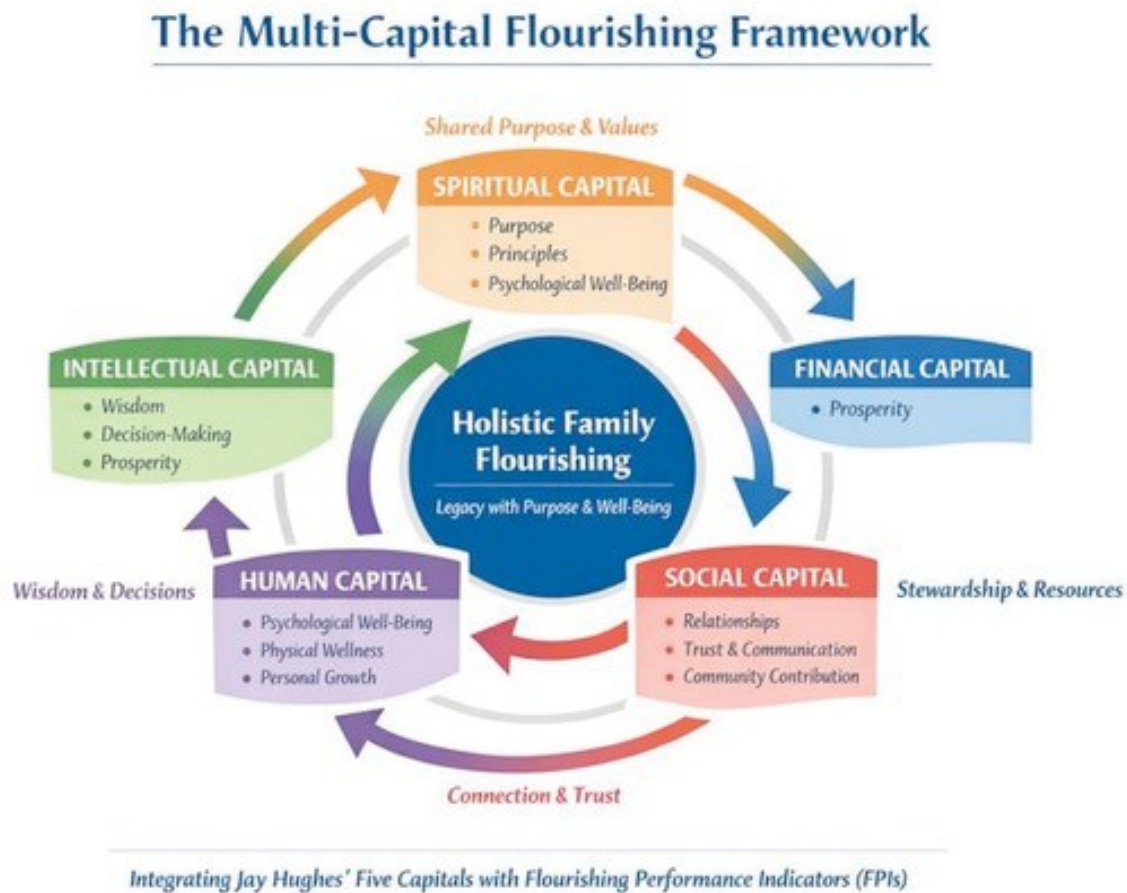
参考文献

- Cerulli Associates. (2022). Cerulliは2045年までに84兆ドルの資産移転が見込まれると予測。 <https://www.cerulli.com/press-releases/cerulli-anticipates-84-trillion-in-wealth-transfers-through-2045>
- Garmhausen, S. (2025). 女性は男性より長生きする：大規模な（水平的）資産移転が到来する。 *Barron's*.
- ギレン, M. (2021). 『組織におけるモチベーション：有意義なワークライフバランスの探求』。ラウトリッジ。
- ホロドニー, E. (2016). 超富裕層は、子供たちが遺産をどう扱うかについて懸念を抱いている。 *Yahoo Finance*.
- ホーン, L. C., ジャーデン, A., スコフィールド, G. M., & ダンカン, S. (2014). 繁栄の測定：操作的定義が高度なウェルビーイングの有病率に与える影響。 『*International Journal of Wellbeing*』, 4(1), 62–90.
- ヒューズ・ジュニア, J. (2024). 富はウェルビーイングである。 『*The Inheritance Podcast*』。
- ヒューズ・ジュニア, J. (2025). 5つの資本：幸福としての富。 ジェームズ・E・ヒューズ・ジュニア財団。
- Johnson, B. R., VanderWeele, T. J., & Case, B. (2025). 「世界で最も幸せな国は、あなたが思っているところとは違う」。 『*ニューヨーク・タイムズ*』。
- Keyes, C. L. (2002). メンタルヘルスの連続体：人生における「倦怠」から「繁栄」へ。 『*Journal of Health and Social Behavior*』, 43(2), 207–222.
- Lee, M. T. (2019). 基礎的な懸念を超えた人間の繁栄の促進。 『*ヒューマニスティック・マネジメント・ジャーナル*』, 4(2), 235–237.
- Lee, M. T., Kubzansky, L. D., & VanderWeele, T. J. (編). (2021). 『ウェルビーイングの測定：社会科学と人文学からの学際的視点』。オックスフォード。
- Lee, M. T., Ritchie-Dunham, J. L., Moreira-Almeida, A., Khosla, M., Johnson, B. R., & VanderWeele, T. J. (2025). 『世界における完全なウェルビーイング：グローバル・フラワリング研究の第1波から得られた教訓』。ベイラー大学グローバル・ヒューマン・フラワリング研究所。
- ロマス, T., パウエルスキー, J. O., & ヴァンダーウィール, T. J. (2025). 「持続可能なウェルビーイング」としての繁栄：人々、生態系、そして時間を超えた内的および相互のバランスと調和。 『*ポジティブ心理学ジャーナル*』, 20(2), 203–218.
- メイヤー, C. (2018). 『繁栄：より良いビジネスがより大きな公益をもたらす』。オックスフォード大学出版局。リッチー＝ダナム, J. L., グランビル＝チャップマン, K. E., & リー, M. T. (2025). 『繁栄のためのリーダーシップ』。オックスフォード。

参考文献

- Ritchie-Dunham, J. L., Jones, S. C., Flett, J., Granville-Chapman, K., Pettey, A., Vossler, H., & Lee, M. T. (2024). 『実践する愛：エコシステム全体の繁栄、組織的影響、および創出される総価値を拡大する大規模マイクロファイナンス銀行における合意』. 『ヒューマニスティック・マネジメント・ジャーナル』, 9(2), 231–246.
- シュワルツ, B. (2005). 『選択のパラドックス：なぜ「より多く」が「より少なく」になるのか』. ハーパー・ペレニアル.
- セリグマン, M. E. (2011). 『*Flourish*: 幸福とウェルビーイングに関する先見的な新たな理解』. サイモン・アンド・シュスター.
- ヴァンダーウィール, T. J. (2017). 人間の繁栄の促進について. 『*米国科学アカデミー紀要*』, 114(31), 8148–8156.
- ヴァンダーウィール, T. J. (2025). 『人間の繁栄：入門的枠組み』. ヒューマン・フラワリッシング・プログラム.
- ヴァンダーウィール, T. J., ジョンソン, B. R., ピアロヴォルスキー, P. T., 他 (2025). 『グローバル・フラワリッシング研究：研究概要とフラワリッシングに関する初期結果』. 『*ネイチャー・メンタル・ヘルス*』, 3, 636–653.
- ヴァンダーウィール, T. J., & ジョンソン, B. R. (2025). なぜ人々のウェルビーイングを測定する必要があるのか——世界規模の調査から得られた教訓. 『*ネイチャー*』, 641, 34–36.
- ヴァンダーウィール, T. J., & リー, M. T. (2025). 愛と人間の繁栄. 『*International Journal of Well-being*』, 15(4), 1–31.
- Waldinger, R., & Schulz, M. (2023). 『*The good life*: 世界で最も長く続いている幸福に関する科学的研究から得られた教訓』. Simon and Schuster.
- ウェジアック＝ピアロヴォルスカ, D., リー, M. T., ピアロヴォルスキー, P., マクニーリー, E., チェン, Y., カウデン, R. G., & ヴァンダーウィール, T. J. (2023). ウェルビーイングの各領域の重要性と、その後のウェルビーイング体験との関連性. 『*サステナビリティ*』, 15, 594.
- ウィリアムズ, R. O., & プライサー, V. (2003). 『相続人の育成：家族資産と価値観の円滑な継承に向けた5つのステップ』. Author's Choice.

付録：ジェイ・ヒューズの「5つの資本」と主要な「繁栄」パフォーマンス指標
の統合



画像は、ピュア・グッドネス・コンサルティングのアン・ホワイト氏によって作成され、許可を得て使用しています。

「主要な繁栄パフォーマンス指標 (Key Flourishing Performance Indicators)」、 「繁栄パフォーマンス指標 (Flourishing Performance Indicators)」、 および「FPI™」は、ケイル・ダウエル、ベニアミン・パスカット、およびマシュー・T・リーの商標です。本書は、著者の許可を得て、ジェームズ・E・ヒューズ・ジュニア財団により2026年に再版されたものです。原著は以下として出版されました：<ケイル・ダウエル、ベニアミン・パスカット、およびマシュー・T・リー。(2025). 『Flourishing Performance Indicators: A New Framework for Wealth and Legacy』. ベイラー大学グローバル・フラワリッシング研究所特別報告書。>